

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東京YWCAキッズガーデン		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2026年2月12日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	担当職員を中心に同じグループのチームで、一人ひとり個別のアセスメントに時間をかけて目標設定と具体的な支援方法と手段など詳細まで立てている。	次回面談までに達成可能なスモールステップの目標を設定することで、子どもも保護者も具体的で見通しの持てる行動に取り組める。	面談と観察をもとにチームで話し合いをさらに充実させ本人中心の支援を具体的に進める。
2	放デイとの多機能型で長年にわたって通い続けていきたい、または関係性を大事にする保護者が多い。	おしゃべり会など親の会の取り組みもあり、親同士のサポートから学年を超えてかわり支えあう関係ができています。	重層的な関係作りから親も子ども一人ひとりが大切にされ尊厳が守られるような空気を醸成していく。
3	ABA(応用行動分析)の専門家をスーパーバイザーとして配置している。	個別のお子さんの支援計画作成にあたり常に相談に乗ってもらえる体制ができており、計画書のチェック、お子さんの行動観察等適宜連携を図っている。	キッズガーデンの取り組みをさらに積極的に外に向けて発信する仕組みを作っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	登園日数が少ない子どもの増加で、契約児の数が増えている一方、待機児がいても定員満たせない。	契約児増は支援計画作成数も増えることとなり、丁寧な支援の充実を妨げる要因の一つになる。	職員の専門性の向上に向けて研修の充実やスーパーバイザーの更なる活用をチーム全体で意識する。
2	療育の実施に必要な物理的な環境設定の工夫を行うが、設備機器などの設置が十分でない場合もある。鍵やフェンス、窓、扉の構造等。	築23年の建物で改修工事や修繕を必要とする部分が見え散見されるようになっている。	構造上の限界や不便さを、社会の中での練習機会と捉えて活用していく。
3			